

技術者教育プログラムによる地方創成推進事業の実施について

Promoting regional revitalization by program for education engineer

○小林範之

Noriyuki KOBAYASHI

1. はじめに

2015年文部科学省による「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に、愛媛大学が申請した「地域の未来創生に向けた“愛”ある愛媛の魅力発見プロジェクト」が選定された。この取り組みは、愛媛県をはじめ地方公共団体や企業、経済団体等と協働し、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラム改革を行い、地域創生の中心となる「ひと」の“愛媛県内”への集積を目的としたものである。愛媛大学農学部も多様な地域ステークホルダーと協働して地域の持続的発展に貢献することを目標とした地域志向型カリキュラムの構築を計画しており、地域環境工学コースが実施している JABEE 認定の農業土木プログラムでも積極的に取り入れる予定である。ここでは、その地域志向型カリキュラムを紹介する。

2. 地域志向型カリキュラム

学部共通科目の「キャリア形成セミナー」、「キャリアデザイン」、「農学実習Ⅰ」および学科共通の「インターンシップ」を整備・充実させ、地域を「知る」、地域と「出会う」、地域を「体験する」、地域と「協働する」という一連のカリキュラムを構築する。以下に各科目の内容を示す。

“知る”ための「キャリア形成セミナー」：これまで実施してきた「農林水産ビジネス最前線」を地域志向型科目として発展させるものである。これまでは農学部の卒業生に講師をお願いしていたが、愛媛県内の企業に就職あるいは起業した卒業生に限定する。内容は、先駆的な取り組み（起業化、六次産業化、農商工連携）を具体的に紹介してもらうが、愛媛という地域性を意識したものとする。当コースでは、さらに「地域環境工学概論」を開講し、愛媛県を中心に実社会での様々な業務と重要性について、事例紹介をしてもらう。

“出会う”ための「キャリアデザイン」：内容は、職に就くことの意義、雇用形態、自己診断、職業適性などのテーマで開催する就職セミナー、ガイダンスや企業セミナーに参加するものである。これまでは「地域」に特化したものではなかったが、愛媛県内の地方自

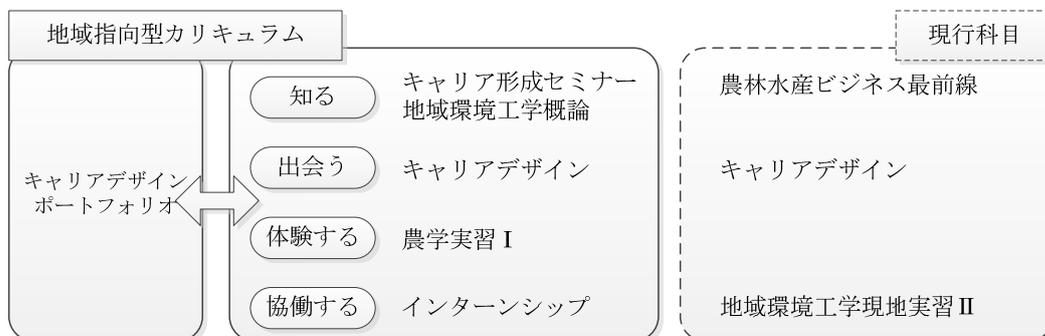


図 1 地域志向型カリキュラム

*愛媛大学農学部：Faculty of Agriculture, Ehime Univ. キーワード：地域志向型プログラム，JABEE

治体や地元企業にも講師を依頼し、地元で職に就くことの意義、メリットを講義してもらう。すでに地元企業からも多くの企業セミナーや説明会の開催依頼が来ており、講義についても依頼が可能である。また、愛媛大学農学部や当コースの卒業生に対するインセンティブを考えている企業も複数あり、県内就職のアピールも十分にできると考えている。

“体験する”ための「農学実習Ⅰ」:愛媛県内の現場や施設の見学および作業体験を行う。生物資源の再生産・利用、自然環境と人間活動の共生および生物資源の適切な管理に関する知識や技術の修得を目指したものであるが、愛媛県内の農学に関わる諸課題を実感できるものとする。なお、当コースでは、農業土木に特化した「農学実習Ⅱ」を担当する。

“協働する”ための「インターンシップ」:当コースが実施している「地域環境工学現地実習Ⅰ」と同様、これまで修得してきた専門の知識や技術が専門職種の場合でどのように役立てられているかを理解し、職場の方と協働することにより勉学意欲、就労意欲を向上させる。これも受入先は愛媛県内を基本とし、県内での就労意欲を向上させる。また、地方自治体と民間企業の組合せで複数回の履修を推奨する。さらに、学生だけでなく、受入先企業の方々も参加するインターンシップ報告会を実施し、学生の取り組み状況の評価を行うとともに、働きがいのある就職先とは何かといった企業側の魅力の向上にも役立てたい。

これまでも、上記に類似した科目を提供してきたが、断片的であり体系化されていなかった。これを有機的に結び付けるために、キャリアデザイン・ポートフォリオの導入を行う。ポートフォリオ作成による自己評価力や到達度の確認力、課題の発見力は、まさにキャリア能力であり、就職活動にも有効である。また、学外講師による講義やインターンシップでは、学生の学習プロセスや到達度を我々教員がわかりにくいという危険性があるが、ポートフォリオの導入は「見える化」となり、学習行動を把握することができる。

3. 組織性

JABEE 認定プログラムの外部評価委員は、当コースの同窓会組織である「樽味会」の会員から選出している。また、上記以外の科目でも樽味会の協力を得ている。さらに、平成 27 年度は愛媛大学農学部の同窓会組織である「ユーカー会」と就職情報の提供に関する協定を締結しており、その協力体制は盤石である。そのため、上記の一連のプログラムを全て受講し、加えて愛媛県内への就職を強く

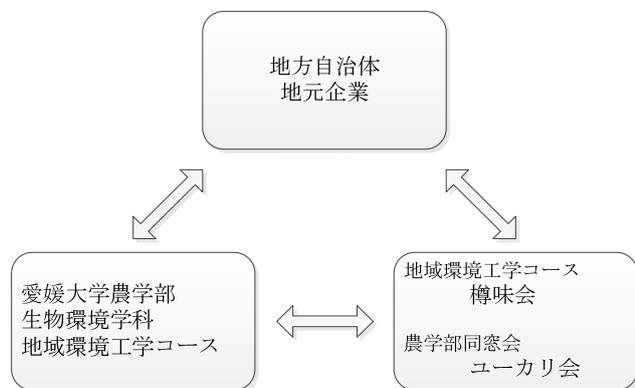


図 2 地域指向型プログラムの協力体制

希望する学生に対しては、その学生の資質を厳格に審査する必要があるが、県内の企業においてその学生が優先的に採用されるインセンティブを与えることも可能である。

4. 教育効果

学生にとって知識や技術を得るだけではなく、愛媛県の地方自治体や地元企業での体験や協働は、高い教育効果と地元への就職効果が期待できる。加えて、地域をよく知るヒトの就職は、受入先の地方自治体や地元企業にとっても大きなメリットであると考えられる。したがって、相互に連携し合いながら実施を進めることで、学生の地域志向を強化し、企業の雇用力や採用意欲の向上に対しても相乗的な効果が得られるものと考えられる。